

政策専門課程第9期（平成26年7月23日～8月8日）

課 目 名	少子高齢化と地域福祉対策
時 限 数	2時限
担 当 講 師	<p>氏名 和田 敏明 <プロフィール></p> <p>昭和41年3月 日本社会事業大学卒業</p> <p>昭和41年4月 社会福祉法人 中央共同募金会</p> <p>昭和43年4月 全国社会福祉協議会で社会福祉研究情報センター所長、高年福祉部長、地域福祉部長、全国ボランティア活動振興センター所長、理事・事務局長歴任</p> <p>平成17年4月 ルーテル学院大学 大学院総合人間学研究科・総合人間学部社会福祉学科教授に就任</p> <p>平成19年4月 大学院総合人間学研究科社会福祉学専攻主任教授</p>
ね ら い	<p>高齢者は、「住み慣れた地域で家族、友人に囲まれて暮らしたい」という意向が強い。しかし現在、虐待、家庭内暴力、孤立死、徘徊死、高齢者に対する詐欺的商法の横行、引きこもり、ごみ屋敷、災害被害等様々な生活課題が噴出し、この当たり前の願いをかなえることが困難になっている。背景には、家族規模の縮小、地域社会の脆弱化と連帯感の希薄化、自治体規模の拡大と財政の縮減による、きめ細かい行政サービスの後退等がある。しかし、超高齢社会の到来は待たなしで進行している。どうすれば、地域で安心した生活が出来る事が可能になるのか、地域福祉の推進と住民参加によるコミュニティづくりの視点から検討したい。</p>
講 義 概 要	<p>少子高齢化と地域福祉対策地域でくらし続けることを保障する社会への挑戦</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 孤立した生活が広がり 現行の仕組みでは対応できないニーズの拡大 2 新たな支え合いの仕組（共助）が必要とされている 3 身近な生活圏域を基盤にした社会福祉施策の新しい動向 4 安心生活創造事業の特徴と意義 5 地域福祉推進市町村の実践プロセス 6 安心生活創造事業から見えてきたもの 7 この事業を通じた提案 8 住民参加型の地域福祉がつくる「福祉コミュニティ」は生活課題」の発生を抑え予防する 9 制度からもれる人々を孤立させない支え合う地域づくり 10 各地の多様な地域福祉活動

受講上の注意	
使用教材	<ul style="list-style-type: none">・パワーポイント、パワーポイントの資料印刷・テキスト：安心生活創造事業成果報告書 厚生労働省 HP
効果測定	なし
その他 (他の課目との関連)	